

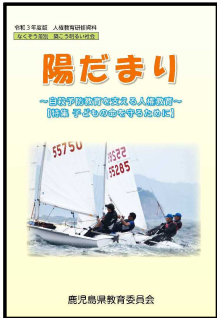


なくそう差別 築こう明るい社会

『陽だまり』

～人権尊重の理念を正しく理解し、自らの人権意識の高揚を図るために～

人権同和教育課



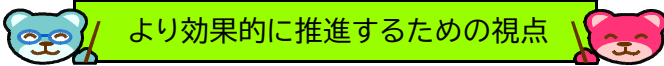
より効果的な研修が実施できるように、今年度から「なくそう差別 築こう明るい社会」と「仲間づくり」の2つの内容を盛り込んだ人権教育研修資料を作成しました！

- I 人権尊重の精神に立つ学校づくり
 - II チーム学校で取り組む人権教育
 - III 人権が尊重される学校づくり
- 【特集】子どもの命を守るために
教職員のためのデジタル研修教材

ここでは、「チーム学校で取り組む人権教育」を効果的に推進するための視点や人権教育の効果的な指導方法、教職員が身に付けておきたいコミュニケーションスキル等について、説明します。

■ チーム学校で取り組む人権教育

様々な人権課題の解決を図るには、学校全体で組織的に取り組むことが重要です。



より効果的に推進するための視点

- ① 推進体制の確立・共通理解
- ② 共通実践
- ③ 点検・評価

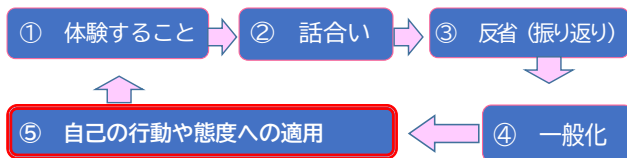
上記①～③をサイクル化することで、より効果的に人権教育を推進することができます。

人権が尊重される授業づくりの主な視点	
○	自己存在感をもたせる支援を工夫
○	共感的人間関係を育成する支援を工夫
○	自己選択・決定の場の設定を工夫

■ 人権教育の効果的な指導方法

「参加」、「協力」、「体験」の活動を取り入れることにより、児童生徒の知的理解は深まり、人権感覚を育成することができます。

《体験的な学習》に関する効果的な学習サイクル



体験的な学習に取り組む際は、体験自体が目的とならないようにすることが大切です。

デジタル研修教材を活用しよう！

県ホームページに18のコンテンツとワークシートを掲載しています。ダウンロードして御活用ください。

鹿児島県 HP で [人権教育研修資料](#) を検索



■ 子どもの命を守るために

■ 我が国の児童生徒の自殺の実態

厚生労働省の調査によると、令和2年の我が国における児童生徒の自殺者数は499人であり、令和元年と比べて100人も増加しています。学校における自殺対策が喫緊の課題となっています。

■ 自殺予防教育を支える人権教育

自殺予防教育を進めるためには、「生命を尊重する」等の下地づくりの教育が必要であり、下地づくりの教育を充実させるためには、相談しやすい雰囲気づくりなどの、児童生徒に寄り添う環境づくりが大切です。下地づくりの教育と自殺予防教育をつなぎ支えるものが、まさに人権教育です。

Mom!の姿勢で子どもと向き合う

児童生徒が安心して自分のつらさを吐露するためには、受け止める教職員側のコミュニケーションスキルが求められます。

ポイント！

- ジャッジしない
- ありのままに受け止める
- アドバイスしない
- 児童生徒の気持ちを勝手に想像しない
(決めつけない)
- 児童生徒が見えている情景を見せてもらう

受容 傾聴

〔対応例〕

生徒：「ときどき、死にたい気分になる。」
先生：「ときどき、死にたい気分になるんだね。」
生徒：「……」
先生：「どんなときにそう感じるの？」

児童生徒が語った言葉を「オウム返し」で受け入れ、さらに、その子の状況や困りごとを「詳しく尋ねる」ことが大切です。